

もたのもしなんど申ぞかし。一切信て信ぜられざりしを、第五卷に即身成仏と申一経第一の肝心あり。

譬へばくろき物を白くならず事漆を雪となし、不浄を清浄になす事濁水に如意珠を入たるがごとし。竜

女と申せし小蛇を現身に仏になしてましましき。此時こそ一切の男子の仏になる事をば疑者は候はざり

しか。されば此経は女人成仏を手本としてとかれたりと申。されば日本国に法花経の正義を弘通し始ま

しませし叡山根本伝教大師の此事積給には、「能化所化俱に歴劫なし、妙法経力即身成仏す」等。

漢土の天台智者大師法花経の正義をよみはじめ給しには、「他経は但男に記して女に記せず、乃至今経

は皆記す」等云。此は一代聖教の中には法花経第一、法花経の中には女人成仏第一なりとことわらせ

給にや。されば日本一切の女人は、法花経より外の一切経には女人成仏せずと嫌とも、法花経にだにも

女人成仏ゆるされなばなにかくるしかるべき。

しかるに日蓮はうけがたくして人身をうけ、値がたくして仏法に値奉る。一切の仏法の中に法花経に値

まいらせて候。其恩徳ををもへば父母の恩・国主の恩・一切衆生の恩なり。父母の恩の中に慈父をば天

に譬へ、悲母をば大地に譬へたり。いづれもわけがたし。其中悲母の大恩ことにほうじがたし。此を報

ぜんをともうに、外典の三墳・五典・孝経等にて報ぜんともへば、現在をやしないて後生をたすけ

がたし。身をやしない魂をたすけず。内典仏法に入て五千七百余卷小乘大乘は、女人成仏かたければ悲

母の恩報がたし。小乗は女人成仏一向に許れず。大乘経は或は成仏、或は往生を許たるやうなれども、

仏の仮言にて実事なし。但法花経計こそ女人成仏、悲母の恩を報ずる実の報恩経にては候へと見候しか